



自由民主党 薬剤師問題議員懇談会 総会 (説明資料)

令和5年11月27日
日本薬剤師会



令和6年度診療報酬・調剤報酬改定に関する 日本薬剤師会としての要望

1. 薬局が物価高騰・賃金上昇に対応するために必要な
診療報酬改定財源の確保 ...P3
2. 頻回・過度な薬価改定が薬局経営の維持に与える甚
大なダメージ（薬価改定前後における備蓄医薬品の
資産価値の減少）への配慮 ...P5
3. 診療報酬の内訳（医科・歯科・調剤の技術料）に応
じた公平な配分の堅持 ...P6
4. 製薬企業による医薬品供給不足（特に後発医薬品）
の早急な改善 ...P7

1. 物価高騰・賃金上昇に対応するために 必要な診療報酬改定財源の確保①

薬局における物価高騰・賃金上昇に関する緊急調査の集計結果

現状、約3割の薬局が赤字経営となっているが (第23回医療経済実態調査より)
さらに、**今回の物価高騰により多くの薬局が負担感を感じている。**
(回答のあった238件中、**約95%** (226件) が負担が増していると回答)

物価高騰関係



消耗品費

特に、紙関係、インク関係、
薬袋、薬瓶等

(有効回答数226件のうち、195件
(約86%) で費用負担が増加している)



電気代

空調、医薬品保管、
照明、調剤機器等

(有効回答数226件のうち、191件
(約88%) で費用負担が増加している)



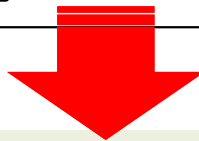
ガソリン代

在宅患者への訪問、
医薬品の配送等

(有効回答数208件のうち、164件
(約79%) で費用負担が増加している)

1. 物価高騰・賃金上昇に対応するために 必要な診療報酬改定財源の確保②

- 2023年の春闘の結果によると、全産業の平均賃上げ率は **3.58%**、従業員数99人以下では **2.94%** となっている。
- また、2023年8月公表の令和5年人事院勧告では、**約3.3%**の給与改善を求めている。



- ・ 全体の **約3割**の薬局では、賃上げを実施できていない。
- ・ 賃上げできている薬局のうち、全体の賃上げ率は **1.99%**、薬剤師のみでは **1.44%**にとどまっている。

全産業(全体)	従業員数 99人以下		薬局全体 (薬剤師+事務職員)	薬剤師 (薬局勤務)
3.58% (10,560円)	2.94% (6,867円)		1.99% (5,081円)	1.44% (5,108円)

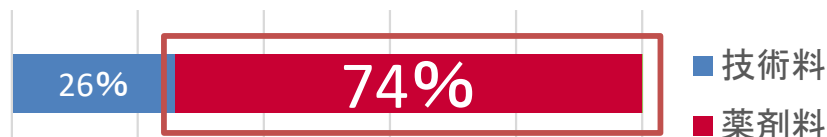
薬局の賃上げ状況は、率・額ともに全産業平均を大きく下回っている

2. 頻回・過度な薬価改定が薬局経営の維持に与える甚大なダメージへの配慮

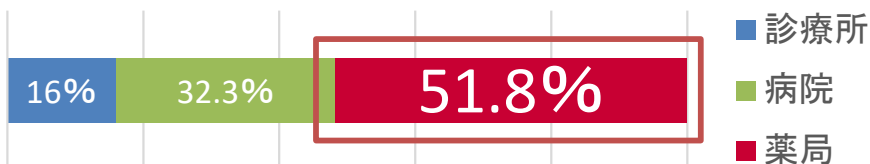
- 調剤報酬の約74%は薬剤費。すなわち薬価改定は、保険薬局の維持・運営等に大きな影響を与えている。
- 約3割の保険薬局が赤字経営の中、薬価中間年改定により、備蓄医薬品の資産価値の減少のみならず、総売上上の減少にもつながり、資金繰りに大きな影響を及ぼしている。
※保険薬局の最頻階級の損益差額は年間で▲165万円（収支0～▲400万円・保険薬局の2割が該当）

**頻回・過度な薬価改定は、
保険薬局の経営に甚大な影響を及ぼしている。**

調剤報酬における薬剤料の割合



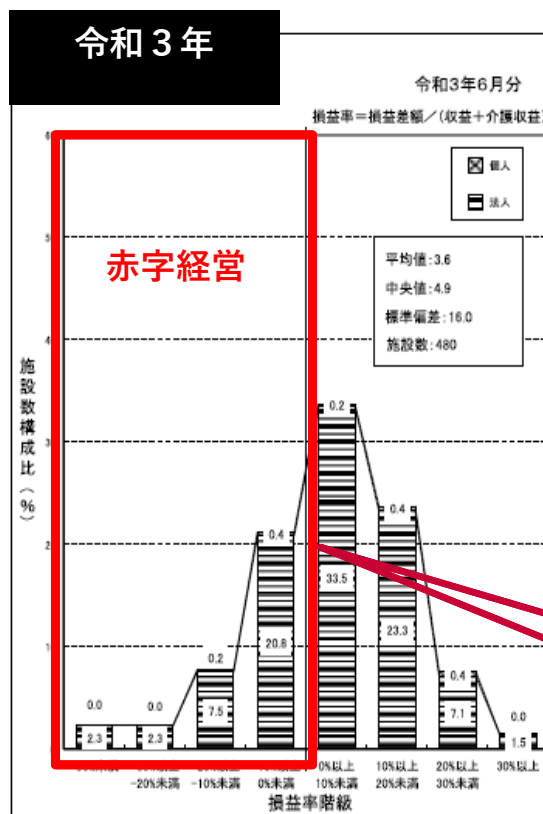
医療用医薬品の納入別の金額割合



薬価中間年改定に伴う薬価の引下げ
約4,300億円のうち、2,236億円(約52%)は
薬局に対する影響

※令和3年度の中間年薬価改定で約4300億円分の薬価引き下げ

令和3年



薬価中間年改定による資産価値の減少

(n=185)

在庫品目数 (R3.3/31) 品目	在庫総額(薬価ベース)			
	①R3/31 (万円)	②R3.4/1 (万円)	③変動率 (②/①)	変動額 (万円)
医療用医薬品 (平均値)	1,199.7	944.1	▲5.3%	▲50.3

1薬局あたり約50万円
資産価値が減少

約3割の保険薬局が
赤字経営

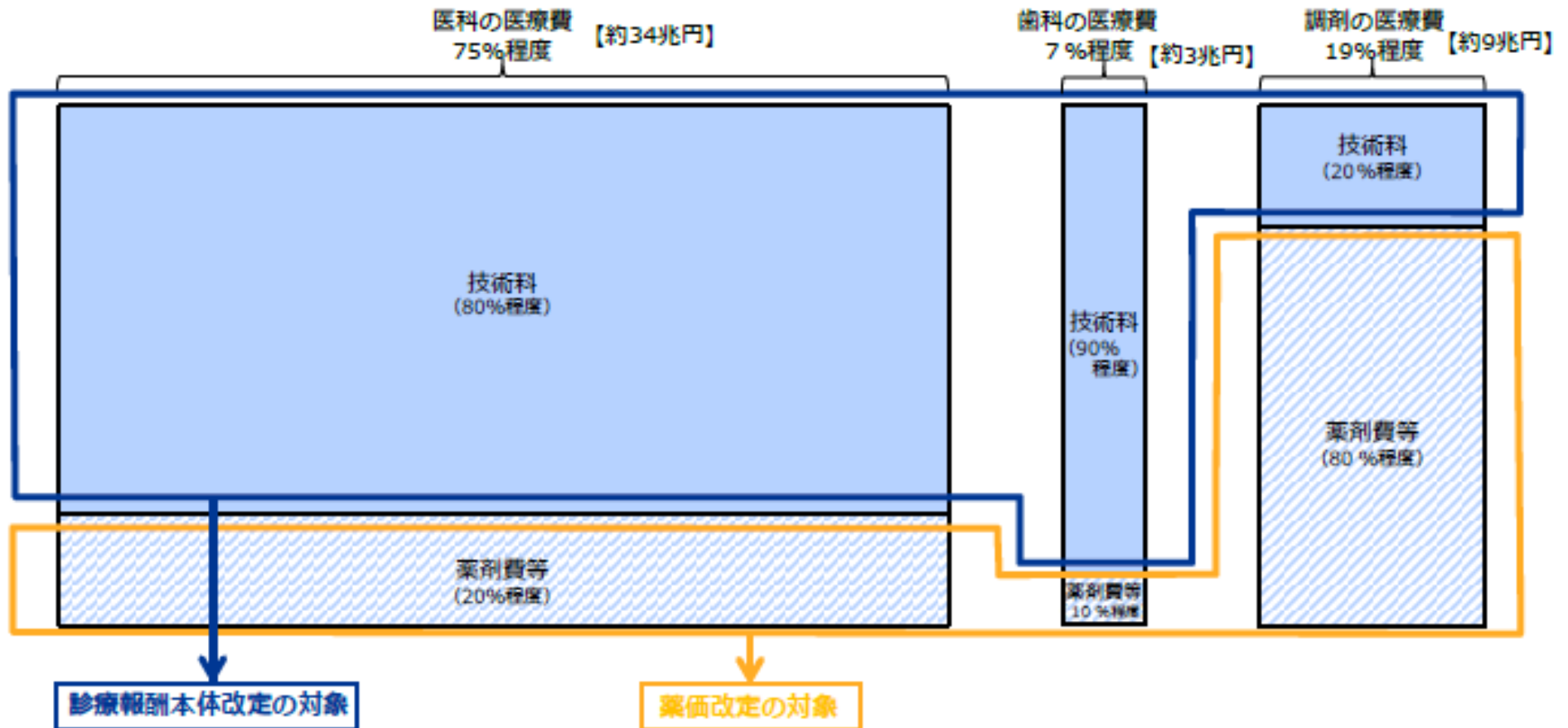
3. 診療報酬の内訳(医科・歯科・調剤の技術料) に応じた公平な配分の堅持



- 診療報酬とは、診療行為等の対価として、病院や薬局が患者・保険者から受け取る報酬（公定価格）。
- 診療報酬は、①医師の人件費等の「技術・サービスの評価」（診療報酬本体）と、②薬の値段等の「物の価格評価」（薬価等）からなっており、個々の技術・サービスを点数化して表示（1点は10円）。

(例) 初診料：288点 (2,880円) 急性期一般入院料1：1,650点/日 (16,500円/日)

診療報酬本体改定・薬価改定の対象範囲 (イメージ)



※ 2016年6月の社会医療診療行為別統計を踏まえ、財務省作成。
【 】の数字は、2019年度予算ベースの国民医療費（約46兆円）を上記の構成比で機械的に分割した値。



4. 製薬企業による医薬品供給不足 (特に後発医薬品)の早急な改善①

- 昨年末の本会調査では、約88%の薬局が医薬品の供給問題による「負担感が悪化している」と回答。その後も医薬品の供給停止・限定出荷が続く中、直近の調査(令和5年10月) **約86%の薬局が「昨年末よりも負担感が悪化している」と回答。**
- **入手困難な医薬品は、鎮咳薬・去たん薬に限らず広範囲に渡る。**先発医薬品の約14%、後発医薬品の約22%において、供給不安定の影響が及んでいる。

○令和5年10月現在の供給問題による現場の負担感

- 昨年末と比較して **約86%の薬局において悪化**と回答
(553薬局/643薬局)

	令和5年10月 (n=643)	(参考: 前回調査) 令和4年12月 (n=283)
かなり悪化している	28.3% (182件)	33.5% (95件)
悪化している	57.6% (371件)	55.1% (156件)
改善されてきている	11.5% (74件)	8.8% (25件)
特段問題なし	0.4% (3件)	0.3% (1件)
分からない	2.0% (13件)	2.1% (6件)

○供給停止等により入手しにくい医薬品の品目数 (有効回答: 638薬局)

- ・取り扱っている**先発医薬品**数: 平均776品目
→そのうち、**入手困難な医薬品数は、平均108品目 (14%)**
- ・取り扱っている**後発医薬品**数: 平均589品目
→そのうち、**入手困難な医薬品数は、平均129品目 (22%)**

入手困難な医薬品の例

L-カルボシステイン (去たん剤) デキストロメトルファン (鎮咳剤)
 チペピジンヒベンズ酸塩 (鎮咳去たん剤) ジメモルファンリン酸塩 (鎮咳剤)
 アセトアミノフェン (解熱消炎鎮痛剤) アンブロキソール (去たん剤)
 ニフェジピン徐放錠 (血管拡張剤) アミトリプチリン塩酸塩 (精神神経用剤)
 ジヒドロコデイン・dl-メチルエフェドリン等配合剤 (鎮咳配合剤)
 ピペリデン塩酸塩 (抗パーキンソン剤) トラネキサム酸 (抗炎症剤)
 アモキシシリン水和物・クラバン酸カリウム配合錠 (抗生物質)
 クエン酸第一鉄 (鉄化合物製剤) テプレノン (消化性潰瘍用剤)
 ツロブテロール貼付剤 (気管支拡張剤) アゼルニジピン (血圧降下剤)
 プランルカスト (アレルギー用薬) アモキシシリン水和物 (抗生物質) など

4. 製薬企業による医薬品供給不足 (特に後発医薬品)の早急な改善②

- 医薬品の供給停止・限定出荷が継続し、先発品・後発品を問わず入手が難しくなっている中、薬局では日常的に追加的な業務負担が発生している。

○ 医薬品の供給問題が薬局の業務に及ぼす影響

- 約99%の薬局が追加的な業務負担ありと回答 (632薬局/638薬局)

追加的に発生している業務の内容と時間(1日平均)		
薬局における追加業務負担 (各薬局の1日平均)	107.2分	632薬局
在庫管理に関する対応 <small>(在庫数の増加に伴う管理負担の増加、在庫確認回数の増加など)</small>	29.8分	628薬局
発注・納品に関する対応 <small>(発注作業の回数増加、確認作業の増加など)</small>	31.3分	637薬局
患者への説明 <small>(供給状況や不足薬・変更薬に関する追加説明、苦情対応の増加など)</small>	23.4分	604薬局
医師への対応 <small>(処方変更・処方日数の相談、変更調剤の情報提供、入荷・在庫状況の共有など)</small>	21.8分	612薬局
その他 <small>(薬局の職員同士での情報連携や共有等の業務、不足分の医薬品を届けるなど)</small>	28.6分	601薬局